

こんにちは、古賀市し尿処理施設「海津木苑」です。

海津木苑は、市内から発生するし尿や浄化槽汚泥等を安全に適正処理する施設です。

4回目となる今回の『うつぎえんだより』では、『古賀市のし尿処理施設の今昔』その3をお話しします。

古賀市し尿処理施設の今昔.その3

新し尿処理施設の建設受入れ

1980（S55）年、当時の古賀町が新し尿処理施設建設に向けた鹿部区への協力要請に対し、さまざま意見が出される中、し尿処理施設が大切な施設だと気づいた鹿部区の人たちは、実際に安全・安心な管理が技術的に可能なのか、他市町村のし尿処理施設へ出向き、施設内外の臭気対策や放流水が科学的に管理され、処理されているかを検証していきました。

そして、技術的には無公害型のし尿処理施設管理が可能と確認した鹿部区は、新施設建設を受け入れる条件として、旧施設でマイナスイメージとなったし尿処理施設を、古賀町が主体性をもって町民に『大切な施設』として認識してもらえるよう啓発の実施や、地域人権課題の早期解決に向けた取組の実施を提示しました。

さらに、新施設周辺を工業団地として開発し、鹿部区民をはじめ古賀町民の雇用拡大をめざした企業誘致を行うこと、特に、新施設には、し尿を処理する施設と食品を扱う工場が同一地域で共存

できる環境となることを求めて、「食品関係工場」の誘致を強く希望しました。

また、鹿部区内のJR鹿児島本線と国道3号線の農地等を鹿部地域だけでなく古賀町の活性化を目的に、区画整理組合方式で開発（現在の美明地区）をすることなどを条件に、1981（S56）年2月、新し尿処理施設（海津木苑）建設を了承しました。

それから2年後の1983（S58）年6月、行政手続き上異例の速さで、古賀町で2代目となる新し尿処理施設海津木苑が完成しました。

完成から40年目を迎える現在も施設機能は維持され、毎日市内から発生するし尿等は安全に処理されていますが、建物には経年による老朽化が進んでいることから、令和3年度から、現在の海津木苑敷地内に、三代目となる新し尿処理施設（汚泥再生処理センター）の建設が進められています。（施設の完成は令和5年12月の予定です。）

次号は、循環型社会形成推進に向け、より進化した「次世代型し尿処理施設」についてお伝えします。

建設工事進捗状況

古賀市汚泥再生処理センター海津木苑（仮称）工事



令和4年1月1日



令和5年1月1日

工事進捗率 **37.9%**（令和5年1月1日現在）